

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告書

短期サポートワーキンググループ 報告

ワーキンググループ長 平井 啓

大阪大学大学院人間科学研究科 准教授

A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でも地域がん診療連携拠点病院の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、「医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援」が求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されているがんサロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務するがん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートグループ運営の手引き」を作成してきた。

ただ、「サポートグループ企画」が真にがん患者とその家族に対して、効果的な心理社会的支援となっているかは、まだ定かではない。なぜならば、がんサポートプログラムはそれぞれの施設で活用できるが、それぞれのリソースが異なるため、施設ごとの対応の柔軟性が求められるが、その対応がまだ十分になされていないためであると考えられる。し

たがって、自施設でどのように企画・運営するのがよいか検討する必要がある。ゆえにピア・サポーター養成プログラムでは、この検討を盛り込み、今後、ピア・サポーターがより安心してそのような活動に携わることができるようになるために、ピア・サポーター養成プログラムのコンテンツとの対応をさらに強化していくべきであると考えた。そこで本年度は、「がんサポートグループ運営の手引き」の内容を元に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」を開発し、実施した。

B. 経過

まず、対象者は医療従事者であり、ねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、オンライン研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的变化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

研修は、講義編とロールプレイを含む実践編の2つのパートから構成された。講義編では、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。まず、「Ⅰ. がん患者に対する心理社会的支援の必要性」として、がん患者への心

理社会的支援の必要性和、がんサポートグループに関して得られている知見を紹介する内容となった。さらにがん診療拠点病院においてがんサポートグループを提供する必要性について明記した。次に「Ⅱ．がんサポートグループの方法論」では、がんサポートグループの目的、がんサポートグループの形態、ファシリテーションの基本的スキル、グループの相互作用、多様なニーズへの対応について解説を行った。「Ⅲ．がんサポートグループにおけるピア・サポーターとの協働」では、がん診療拠点病院におけるがん患者への心理社会的支援にピア・サポーターを導入することの利点やピア・サポーターの役割について、ピア・サポーター養成研修の紹介も含めて解説を行った。最後に、本研修の目的として、がん診療拠点病院のがん相談支援センターの相談員などのスタッフがファシリテーションの技術を取得することで、がん相談支援センターの相談員とピア・サポーターが共同運営するサポートグループを目指すことであることを示した。講義編では、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものではなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。

次に、実践編では、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。まず、「Ⅰ．基本的なファシリテーションのスキル」では、がんサポートグループのファシリテーションの基本スキルとして、「1. 安全を守る場作りと提供」、「2. 情緒的なサポート」、「3. 相互作用の促進とロールモデルの提供」、「4. 難しい問題に効果的に対応する」の4つを設定し、それぞれの解説を行った。さらに本研修ではすでにこれらの基本的スキルを身につけている参加者は、レベルアップとして、「参加者からロールモデルとなる体験を引き出すことができる」、「リピート参加者に運営のサポートを依頼できる関係を築くことができる」を目指すことが示された。この中でも、サポートグループのファシリテーションとして、グループの相互作用を促すために、「受ける」・「振る」・「ポジティブ・フィードバック」の3つの要素を基本的なスキルとして獲得を目指すことになった。

次に、「Ⅱ．サポートグループの実際」で

は、①準備、②サポートグループを始める（ルール説明と自己紹介の場面）、③サポートグループでのやり取り（傾聴、受容、共感、話を発展させる）、④サポートグループでよくある場面についてそれぞれ動画を作成し、それを視聴することで実際のサポートグループの場面での必要なスキルを理解できるようにした。

この後、「Ⅲ．ロールプレイの実践」では、「ファシリテーターを体験する」として、ファシリテーター役、ピア・サポーター役、参加者役の3人1組でファシリテーションのロールプレイを行った。ロールプレイは、役作り2分、ロールプレイ5分、振り返り3分となっており、参加者全員が、相談者の話を「受けて」「振る」というファシリテーションの体験をすることとした。次に、「Ⅳ．難しい場面でのファシリテーション」として、「話が長い」人への対応方法や「沈黙」、「個人的な話」への対応についてそれぞれ動画を使って具体的な解説を行った。

研修会の最後は、グループディスカッション・情報交換の時間とし、参加者それぞれがサポートグループの運営において抱えている課題や解決策に関して自由に議論を行う時間とした。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

C. 結果

事前調査の結果、受講者の背景は、表1のとおりであった。参加した相談員のサポートグループのファシリテーター経験は50名(67%)であった。サポートグループ運営に関する知識と態度の項目については、図1に示すように全体として、サポートグループの重要性を理解しているが、自信が低い傾向にあった。さらにこれらの項目への回答結果についてクラスター分析(ward法)を行った結果、対象者は「ビギナー(24名)」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い(17名)」「ピア・サポーター未導入でロールモデル経験が弱い(22名)」「ピア・サポーター導入(19名)」「エキスパート(4

名)」（※未回収2名、サポートグループ未経験者2名を除く）という5つのクラスターに分かれた（表2）。そして、これらの対象者の特徴を、本研修で設定した目標レベル別に分け、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」、レベルⅢ：「エキスパート」とした。この目標レベルは、事前に各対象者に提示し、現在よりも上位の目標レベルの達成に向けた取り組みが検討できるよう促した。

また、参加者の所属する施設でのサポートグループの開催状況については図2のような実態が明らかとなった。一方で、ピア・サポーターとの協働については、図3と図4のような実態が明らかとなった。最後に、各施設のサポートグループの課題についての自由記述については、①コロナ禍での開催の課題が多い、②患者サロンの活性化はそれに関わらず従来からの課題のようである、③ピア・サポーターとの協働、ピア・サポーターを養成する仕組み作りはわからない、もしくは手探りの状況、フォローアップにはマンパワーの不足もある、④院内での理解と周知、協力により、改善できる可能性はある、⑤一方で、相談員はサポートグループに対する自身の知識不足や努力不足も感じているとまとめることができた。

事後評価の結果、事前調査と同様の項目で、対象者のサポートグループに対する知識や自己効力感について訪ねたところ、すべての項目の平均値が有意に上昇した（表3）。このうち「ファシリテーターの役割を理解」「ピア・サポーターとの協働の理解」「サポートグループ運営の自己効力感」の3項目については効果量が大きく、研修の目的が十分に達成されたと言える。また、ファシリテーションに関する評価については、図5のようにすべての項目について肯定的な評価となった。最後に、研修会全体の評価については図

6のとおりである。この表から、講義内容は概ねわかりやすく、期待を満たすものであり、継続的の研修参加の要望があることが分かった。また、オンラインの操作、積極的な参加ができたことを評価していることと、基本的なファシリテーションのスキルを、実践を通して学習でき、サポートグループの企画・運営の課題について話し合えたことが明らかとなった。

D. 考察

サポートグループは、がん患者が人生に対する気力を増大させること、かんに対する新たな姿勢を獲得するなど、情緒面を支える上で非常に重要な役割をもつ。ゆえに、孤独や不安を感じているがん患者やその家族が、がんとともに安心して自分らしく暮らせるための心理社会的支援の拡充として、医療従事者である研修参加者が自施設の「がんサポートグループ」の企画・運営について見直し基本的な知識と技術を獲得するのが、本研修会の目的であった。

事後評価アンケートの結果から、参加者は研修を受けたことによってファシリテーターとしての役割を担うことと、ピア・サポーターとの協働、サポートグループ運営の自己効力感が上がったことが確認された。これによりそれぞれの参加者が今回の研修内容を活かして、よりスキルを発展させ各サポートグループに貢献していくことが期待される。

また、今回の研修会について事後評価アンケートの自由記述から、「医療者とピア・サポーターが協働することで、参加者の満足度があがることに気づいた」「他施設と悩みや課題を話し合うことで解決の糸口を知ることができた」「組織内で協力を得てサポートグループ活動を改善したい」という記述もあるため、研修自体の改善・発展もさせていくことも「より良いサポートグループ」の構築につながると考えられる。

表 1.研修会受講者の背景

1. 施設数：66施設(北海道2、東北4、関東21、中部7、近畿17、中四国7、九州8)

2. 所属：

所属	名
がん相談支援センター	49
がん診療センター	9
患者サポートセンター	8
医療福祉/社会事業相談	5
精神神経科/心療内科/臨床心理科	4
緩和ケアセンター	4
看護部	3
その他（院外の患者支援・大学も含む）	6

3. 職種：

職種	名
看護師/保健師(専門・認定含む)	47
MSW	26
臨床心理士/公認心理師	11
医師	3
薬剤師	1

4. がん相談支援センターでの配置状況：

配置	名	配置	名
専従	47	担当でない	6
専任	17	専任	5
兼任	13	その他	5

5. 臨床経験 18.8年

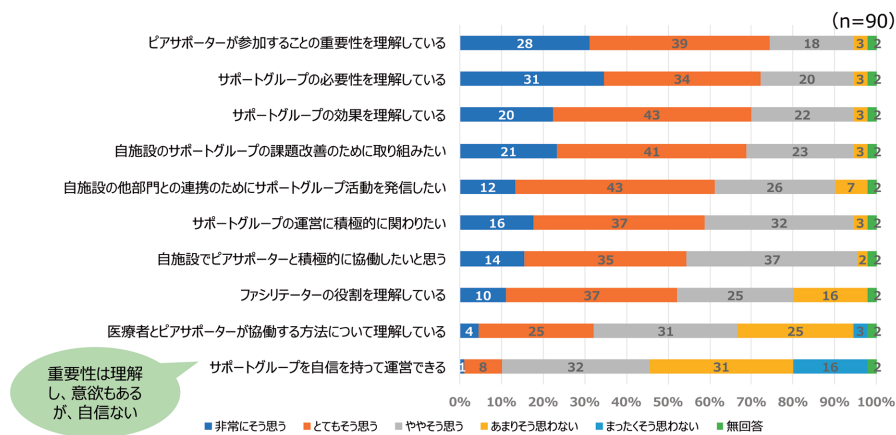


図 1.サポートグループ運営に関する知識と態度

表 2. サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果

	分類	特徴
目標レベルⅠ	ビギナー 24名 ピアサポーター未導入・多様なニーズ対応が弱い 17名	総じて各スコアの平均点が低い 目標Ⅰやや未達成、ロールモデル、多様なニーズを満たすことが課題である
目標レベルⅡ	ピアサポーター未導入・ロールモデル経験が弱い 22名 ピアサポーター導入 19名	目標ⅠⅡはまずまず達成できている ピアサポーター導入による効果あり。それ以外、エキスパートには及ばないが概ね達成している（本来はⅢでもよいくらい）
目標レベルⅢ	エキスパート 4名	ピアサポーターの導入以外Ⅲは達成している

- **開催プログラム数：121プログラム**
1個 61名 2個 18名 3個 4名 4個 3名
- **平均参加者：11.5名**
最多 70名 最少1名
- **開催状況：（n=121）**

感染予防対策のため中止	101
オンライン開催	13
対策をして再開	5
無記入	2

※オンライン検討 29、オンライン以外の方法を検討 4
- **開催頻度：（n=121）**
毎週 3 隔週 7 毎月 60 隔月 21 年1～4回 30
- **年齢層、疾患や病期の限定：（n=121）**
あり 24 なし 97
- **他施設からの参加：（n=121）**
参加可 89 参加不可 32

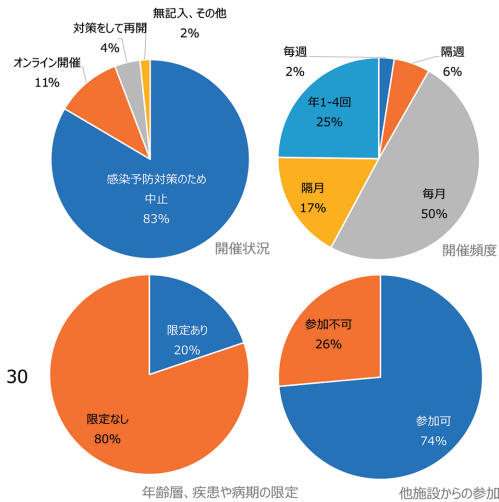


図2. サポートグループの開催状況

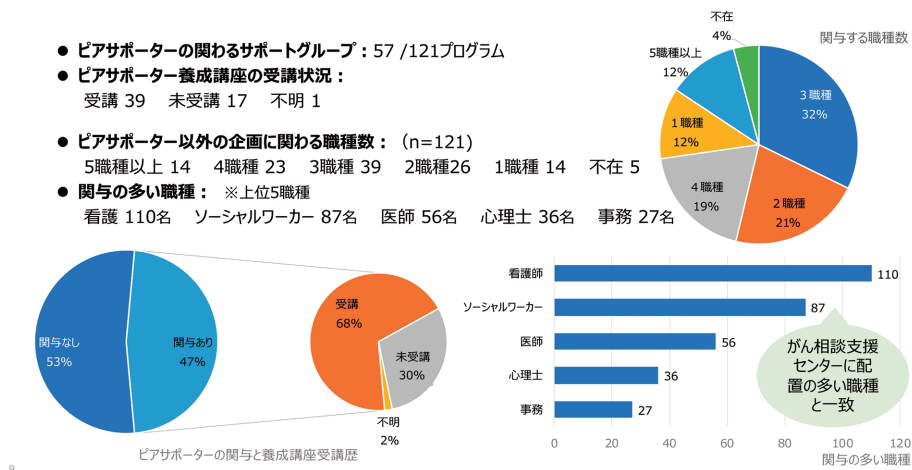


図3. ピアサポーターとの協働についての実態①

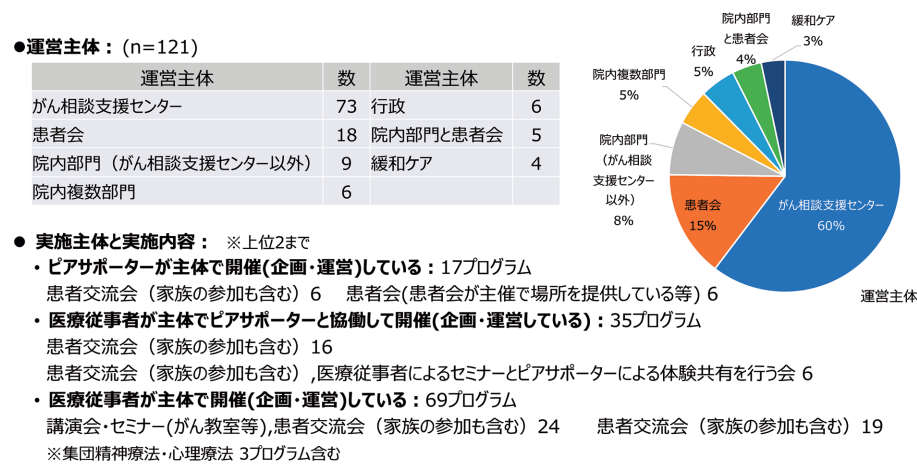


図4. ピアサポーターとの協働についての実態②

表3. サポートグループ運営に関する態度と知識に関する研修前後の変化

	研修前		研修後		t値 (df=80)	P	d 効果量
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
サポートグループの必要性を理解している	4.04	0.84	4.54	0.53	-6.59	0.00	0.59
サポートグループの効果を理解している	3.86	0.76	4.47	0.62	-7.10	0.00	0.80
ファシリテーターの役割を理解している	3.44	0.89	4.47	0.59	-9.59	0.00	1.15
ピアサポーターが参加することの重要性を理解している	4.06	0.80	4.54	0.53	-5.58	0.00	0.60
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	3.69	0.75	4.19	0.59	-6.27	0.00	0.66
医療者とピアサポーターが協働する方法について理解している	3.02	0.97	4.01	0.73	-9.06	0.00	1.02
自施設でピアサポーターと積極的に協働したいと思う	3.65	0.74	4.17	0.63	-6.01	0.00	0.70
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	3.88	0.78	4.30	0.66	-4.70	0.00	0.54
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.67	0.81	4.12	0.68	-5.09	0.00	0.56
サポートグループを自信を持って運営できる	2.41	0.92	3.37	0.83	-9.93	0.00	1.04

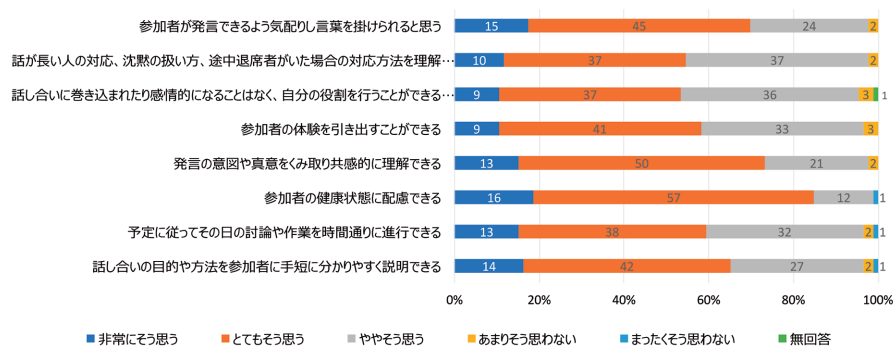


図5. ファシリテーションの評価

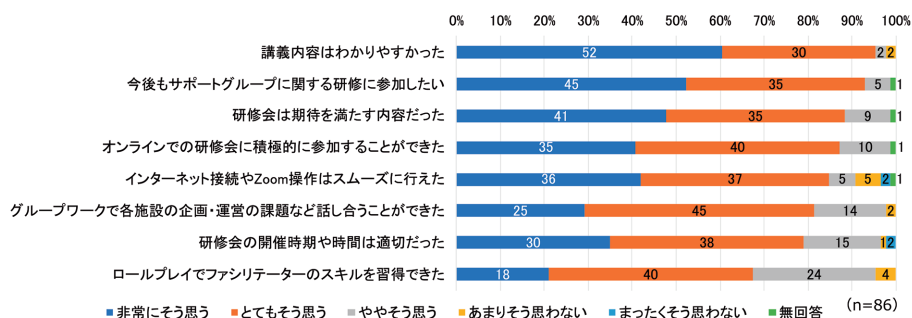


図6. 研修会全体の評価

第1回 WG 会議

日時：令和2年6月8日（月）18：00～20：00

議事：1) 事業内容の確認

2) ワーキングの方向性の検討

3) 今後の予定の確認

第2回 WG 会議

日時：令和2年7月27日（月）18：00～20：00

議事：「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」スライド作成の役割分担

第3回 WG 会議

日時：令和2年8月24日（月）18：00～20：00

議事：研修会スライド修正、事前評価アンケート作成作業

第4回 WG 会議

日時：令和2年9月28日（月）18：00～20：00

議事：研修会スライド修正、事前評価アンケート作成作業

第5回 WG 会議

日時：令和2年10月10日（土）18：00～20：00

議事：1) 研修会スライド修正、事前評価アンケート作成作業

2) 講義用動画撮影のための役割決め

第6回 WG会議

日時：令和2年12月28日（月）18：00～20：00

議事：研修会スライド修正、事前評価アンケート作成作業

第7回 WG会議

日時：令和3年1月11日（月）19：00～21：00

議事：スライド修正作業

第8回 WG会議

日時：令和3年1月29日（金）19：00～21：00

議事：1) 研修会で使用するスライドの確定
2) 研修会当日の役割分担の確認

第9回 WG会議

日時：令和3年3月4日（木）19：30～20：30

議事：1) 「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」振り返り
2) 次年度に向けた方向性の確認

「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」講義用動画撮影

日時：令和2年10月22日（木） 15：00～21：00

会場：グランフロント大阪 カンファレンスルーム

がんサポートグループ企画運営者のための研修会

日時：令和3年2月10日（水）（前日打合せ 20：00～22：00）

令和3年2月11日（木）（研修会 10：00～17：00、反省会 17：00～18：00）

会場：スタジオ ドールアップ